

2021年度 清瀬療護園 事業報告

1 総 括

前年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響を受けた一年でした。2度の緊急事態宣言等により、外出やご家族との面会等の制限が長期間となり、ご利用者の皆様には大変なご不便とご負担をお掛けしました。その代わりに潤いのある生活を提供するために、これまでの経験を活かして感染対策に留意しながらカツオの薫焼きや運動会、焼き芋大会等、初めて行う催し物を職員が主体的に企画し、ご利用者に楽しんでいただく取り組みを継続、発展させることができました。

ご利用者の高齢化、重度化に伴い医療的ケア増加に対応する取り組みの一つとして、喀痰吸引の認定者数を令和3年度末までに生活支援員の50%を目指しましたが、60%となり目標を達成しました。看護師が担っていた喀痰吸引、経管栄養の滴下を生活支援員が行なうことで、より身近に実施する環境が整いました。しかし、職員の補充が進まず生活支援員の負担が続いており、継続した課題となっています。こうした状況の中でもご利用者の健康管理、ADL支援の充実に取り組んだ結果、退所者数、入院者数を減少することができました。

財政面では短期入所、生活介護の利用率が令和元年度の水準まで回復することができず厳しい状況が続いています。

6月22日に医師法違反の嫌疑で警視庁東村山署による家宅捜査がありました。7月1日から11月24日までに22名の職員が任意の事情聴取に協力し、12月29日に押収された書類等が返却されて捜査は一段落しました。令和4年2月28日に東村山警察署より、検察の判断が決まり本件は全て終了したとの連絡を受けました。清瀬療護園の処分はありませんでした。

2 重点目標の取り組みと来期の課題

1) 提供するサービス

【目標】 ① ケアの質の向上 ② 医療ニーズへの対応
【取り組み】 ① 歯科衛生士の雇用 職種間連携 ② 喀痰吸引特定医療行為資格認定者目標数値達成。
【取り組みの結果】 ① 継続的に訪問歯科 Dr.に生活支援員への指導をお願いしていましたが、歯科衛生士を雇用して口腔ケアの充実を図ることで誤嚥性肺炎での入院を防止することができました。 また、制限のある生活が継続している中、ご利用者の QOL 向上の為に園内企画を職員主体ではありましたが、新たに発案したことによりご利用者に潤いある時間が提供出来ました。職種間連携では、お互いを理解・協業する事で、職員個々がご利用者の立場に立った安心安全なサービスの提供に努めました。 ② 喀痰吸引認定者の目標として生活支援員 50%の取得を目指しましたが、60.0%の取得となり目標を達成できました。また、ケアの質の向上を目指す取り組みの一環として

「介護職員が行える医療的ケアの範囲」研修をおこない、医療行為の知識を深めてもらうとともに、吸引・滴下を全体で取り組んでいく体制が整いました。今後も更に医療と介護の連携を密にして医療コース（仮称）の構築に取り組みます。

2) 人材育成

【目標】

- ① リーダー層の育成
- ② 専門性の向上
- ③ 資格取得

【取り組み】

- ① リーダー層の育成として管理監督職のマネジメント力の向上を目指し、主任・副主任が中心となり生活支援課職員の育成計画を作成し実施しました。
- ② 専門性の向上を目指しコロナ禍でも参加出来る様々な研修を行いました。危険予知研修では生活支援員全職員を対象におこない職員一人一人の危険予知の感度を高め危険要因の早期発見と事前の対処が自然にできるようになることを目標に実施しました。また、ご利用者の骨折事故を受けて、PT・OTによる「介護の際の注意点研修」と称して事故防止強化週間として集中的に実施しました。
- ③ 資格取得助成制度の周知等を行いました。介護福祉士等の国家資格取得を促し、園内で勉強会をおこないました。

【取り組みの結果】

- ① 主任・副主任が中心となり育成計画を実施することでリーダーとしての自覚を持つことができました。また慢性的な職員不足、コロナ禍と日々の業務が大変な中、管理監督職がリーダーシップを発揮し上手に工夫し現場のマネジメントができました。
- ② 全職員を対象に危険予知研修をおこなったことにより現場での危機管理意識を高めることができました。個別相談や実際のケア場面での質問を生活支援員から発する事により、事故発生率の低減につながったと思います。しかし、危険要因を職員間で共有するために必要なヒヤリ・ハットの提出数が少なかったことが今後の課題です。
- ③ 今年度は生活支援員から介護福祉士に3名が合格しました。

3) 地域連携

【目標】

- ① 施設の専門性・設備の提供
- ② 地域の障害者支援

【取り組み】

- ① 新型コロナウイルス感染防止のため、多目的室などの設備解放、地域の方々によるイベントの開催、ボランティアの受け入れはすべて中止となりました。地域の方々やボランティアとの交流を絶やさないように3か月に一度の頻度で広報誌や手紙を送りました。また、実習生の受け入れをリモートで行い障がい者支援の概要を指導しました。
- ② 地域の障害をお持ちの方を生活介護事業として感染症対策を日々行いながら受け入れを行いました。

【取り組みの結果】

- ① ボランティアの方約 20 名からお返事（メッセージ）をいただき、地域の方からは富士山の写真を提供していただく等、細いながらも交流が続いています。
実習生にはリモートで利用者の方と交流ができたため限られた環境の中ではありましたが、好評でした。
- ② 生活介護のご希望者には感染症の状況が落ち着いている際に面談や体験利用を行っていただき積極的に受け入れを検討しました。

4) 財政健全化

【目標】

- ① 総合支援費報酬等の増加
- ② 支出の抑制

【取り組み】

- ① 空床期間を短くするために健康管理を充実させて長期入院を防止し、退所後の新規受入れは 60 日以内を目標に対応します。
- ② 経費削減に向けた意識への取り組みを継続します。経費を見える化して毎月報告し、経費削減への意識の向上を図ります。

【取り組みの結果】

- ① 令和 3 年度の施設入所支援は長期入院が 2 件、退所は 3 件ありました。
長期入院については退院に向けて、病院、ご家族の協力のもと、病状の経過について共有してきましたが、回復に時間を要し、退院見込みが先延ばしとなりました。この間の空床利用について短期入所の受け入れも検討しましたが、具体的な議論には至りませんでした。
退所後の受け入れについては、3 件中 2 件は退所後 60 日を超えての入所となりました。主な理由としては、入所前の PCR 検査にて陽性となり待機期間が発生したことや、感染対策により、訪問面談の日程調整に時間を要したことが挙げられます。歯科衛生士を新たに雇用し、口腔ケアを充実させることで、誤嚥性肺炎による入院は減少したものの、空床期間の間延びの影響が大きく、利用率の向上、増収には繋がりませんでした。
また、通所、短期入所ともに前年度に比べ減収となりました。通所、短期入所の新規受入れ業務についても、感染症流行の影響を受け施設見学や面談を制限するなどの対策を行ったため、通常より時間を要しました。
- ② 運営会議で毎月進捗を報告しました。また、当初予算で申請したものについても、必要の可否、または必要時期等について各部署で再検討するよう促しました。その結果、購入の取りやめや、翌期への繰り越しなど各部署での創意工夫につながりました。

5) その他

【目標】

- ① 法人理念、各規程・規則の統一した見解
- ② ICT 化プロジェクトの立ち上げ

【取り組み】

- ① 法人理念については管理監督職で解釈を共有したものについて入職時オリエンテーション

の際に説明しました。各規程・規則について、管理監督者層への解説を行う計画でしたが、検討課題が多く十分な解説には至りませんでした。

- ② 令和3年度より発足したICT化プロジェクト委員会は毎月開催され、「リアルタイムで情報が更新され、すぐに共有できる」仕組みづくりやペーパーレス化を主目的としたICT機器の導入に向け検討を重ねました。また、面会制限に対応するため、「オンライン面会」のシステムを構築しました。

【取り組みの結果】

- ① 法人理念について、新人職員への説明は行っていますが、職員全体への周知活動が不十分であり、また周知活動を行う前提である管理監督者層へのフィードバックや議論に乏しい状況があります。重要な決定や日々の判断に理念の考え方を根付かせていくには、地道な啓蒙活動を継続的に行う必要があります。並行して、コロナ禍、先行きの見えない社会情勢の中で、理念に謳う利用者主体の生活や地域社会との連携をどのように推し進めていくのか具体的な将来像を示すことも今後の課題です。

各規程・規則については、他重点課題の議論により先送りされ、十分な説明の機会を設けることができませんでした。令和4年度も管理監督者層が一般職員へ規程・規則に基づいた労務管理ができるように、定期的な説明とフィードバックの機会を意識的に設ける等の取り組みを継続的に行っていきます。

- ② 既存の情報共有ツールであるファイルメーカーの機能をカスタムし、ケース記録のペーパーレス化が進みました。日々の分担や重要事項については紙面も併用しながら、情報共有をしやすい環境づくりが進んでいます。現場レベルでのリアルタイムでの情報共有ツールとして、インカムの導入につき外部業者のサポートの基で検討しましたが、コスト面の課題が大きい為、補助金の活用を前提として、補助金についての情報収集を行っているところです。令和4年度は施設の財政状況と補助金の動向を注視しながら、インカムの段階的な導入に向けて検討を重ねていきます。

また、コロナ禍での面会制限による代替手段として、タブレットのライン通話機能を活用した「オンライン面会」のシステムを構築しました。面会制限の強弱により利用の多寡はありますが、柔軟な面会対応の一助となることが期待されます。

3 申出のあった苦情の対応

申立月	苦情の内容	対応と結果
7/11	簡易書留の届けの遅れ。	郵便の受け渡し方法の確認し、管理課・生活支援課に郵便物の取り扱いについて再周知する。
8/27	個人で購入した食品については施設で提供している調味料は使用できないという運用方法を伝えたところ、職員間の認識の違い等、報連相の瑕疵により不愉快な思いをさせてしまっ	事実確認を行い実際は違う利用者のことだったのが判明、施設側の報連相について不十分であったことが認められ、謝罪する。対策として、報連相、感染対策、接遇、記録の書き方についての4つの改善の方向性を明示した。調味料については自由に使用できる様に運用を変更した。

	た。	
9/28	重大事故後の経過報告が不十分であること、依頼したことが履行されていないことに対する苦情	報連相の不徹底や記録が不十分であることでの情報共有不足に起因。ご家族へ謝罪し、改めて説明する。依頼の件（レントゲンのコピー、明細書の送付の件）につき対応する。

4 発生した事故の内容

種別	件数	摘 要
重大事故	4件	7/28 薬の誤薬 9/1 大腿骨顆上骨折 10/25 右手拇指末節骨骨折 2/11 泡沫痰多量排出による窒息での呼吸停止

5 職員体制（令和3年3月31日）

職種	事務員	サビ管	生活支援員	食事介助	医師	看護師	看護助手	P T ・ O T	ST ・ DH	管理栄養士	調理員	運転手	洗濯員	清掃員	喫茶担当	相談支援員	合計
職員数	6	2	90	8	2	12	1	2	2	1	8	2	3	5	3	2	149
内常勤	4	2	67	0	1	5	0	2	0	1	5	0	0	0	0	2	89
常勤換算	5.5	2	86.8	2.2	1.1	8.4	0.8	2	0.7	1	7	1.8	2.6	3.7	1.7	2	129.3

6 研修の実施状況

1) 施設内研修

研修テーマ	内容	講師	参加職種	延人員
薬剤研修	薬剤の効果、影響について	看護師	生活支援員	4/1,2,6,7 5/17,18 61名
補装具部門リフト研修	リフト使用について	補装具部門	生活支援員	4/21～ 63名
危険予知研修	利用者情報から危険要因をみつけ事故防止に繋げる	危険予知部門員	生活支援員	6/22 地域支援課 18名 9/19 1階10名 12/5 2階12名 3月101名
接遇向上部門研修	接遇マナーマニュアル読み合わせ	接遇部門員	生活支援員 看護師	95名

園内研修	職場の人間関係を 交流分析から学ぶ	地域支援課職員	全職員	7/12 11名 8/23 12名
医療研修	介護職員が行える 医療的ケアの範囲	施設長 看護師	生活支援員	9/8,15 62名
PT・OT研修	体を動かす注意点	理学療法士 作業療法士	生活支援員	9月～10 月 60名
東社協登録派遣講師研修	チームコミュニケ ーション			12/8 34名
接遇向上部門	接遇マナーマニユ アルの読み合わせ	接遇向上部門員 課長主任	支援職員	11/17,24
喀痰吸引等実施研修	喀痰吸引	看護師	生活支援員	22名
救命救急研修	救命救急時の対応	消防署員	全職員	12/15 27名

2) 施設外研修

研修名	主催	参加職種	人員
より良い支援を考える～虐待防止・権利擁護研修 2021～	東京都社会福祉協議会 身体障害者部会従事者会	管理監督職	8/30
with コロナの時代の支援 他 (オンライン)	東京都障害者通所活動施設 職員研修会	管理監督職 生活支援員	9/22 6名
社会福祉法人龍鳳支援実践報告会(オ ンライン)「意思決定支援の実践」	社会福祉法人幸会	相談支援員	9/11 1名
「骨折予防のこつ・コツ・骨」～基本 のこつをコツコツ実行し骨を守る～ (オンライン)	東京都府中療育センター	全職員	2/25 10名
アンガーマネジメント研修(オンライ ン)	同左	全職員	11/2 5名
チームワークコミュニケーション	東社協登録講師派遣事業	全職種	12/8 34名
スノーブレンを始めてみよう(オンラ イン)	日本スノーブレン協会	OT	1名
メンタルヘルス研修～今日からでき る！福祉職員のためのセルフケアに ついて」	東社協 身体障害者福祉部 会	全職員	3/4 15名

7 サービス単位ごとの年間利用者延べ総数

区分	利用者延べ数
施設入所支援	20,981人(上半期:10,580人、下半期:10,401人)
生活介護	3,638人(上半期:2,010人、下半期:1,628人)
短期入所	1,819人(上半期:1,060人、下半期:759人)

8 行事の実施状況

実施月日	行事名	実施場所	参加者			
			利用者	職員	その他	計
4月28日	オリエンテーリング大会	施設内	40名	18名		58名
4月28日	かつおのわら焼き	中庭				138名
8月22日	水遊び(入所)	中庭(ユニット)	50名	15名		55名
8月27日	水遊び(通所)	中庭	8名	6名		14名
9月15日	ミニミニ夏祭り	施設内	60名	18名		78名
10月3日	ミニミニ運動会	中庭	50名	25名		75名
10月27日	ハロウィン	活動室1	62名	22名		84名
11月28日	焼き芋大会	中庭	50名	15名		65名
12月22日	クリスマス会	日中活動室・ユニット	57名	18名		75名
12月24日	ミニミニクリスマス	活動室3	13名	13名		26名
12月26日	餅つき	ユニット中庭	50名	15名		65名
1月1日～3日	お正月企画(初詣・縁日)	活動室3	60名	25名		85名
2月27日	髪の毛のカーリング	居室	3名	2名		5名
2月	オセロ大会	活動室3・4	12名	6名		18名
3月23日	お花見	所沢航空公園	8名	9名		17名